

14報目の留学報告書です。今回はネガティブな内容ばかりになってしまうのですが、それも長い留学の一部ということでしょう。ある程度は努力でカバーはできるものの、配られたカードでしか勝負ってできないよなあと最近よく思います。

1. Stanfordでの研究活動について

残念ながら最後の最後で上手くいかず同じところで足踏みをしている状況で辛い状況です。ほぼ同一の内容の論文が他のグループから出てしまったので、どうするか悩ましいところです。結構心が折れかけていますが、なんとかして最後までまとめられるようにがんばります。

2. インターンについて

インターンでの研究も学会に出すことができずに終わってしまいました。夏中に考えていたものを学会提出に向けて評価を行ったところ、あまり性能が良くないことが判明し、学会提出は諦めました。性能が良くなれば新規性の提案で論文が書けて私にとっては良い一方で、性能が良くならなければ計算量が抑えられ将来プロダクトにしやすい会社にとっては望ましいという内容だったので、どっちに転んでも大丈夫だったのですが、半年を費やしたので悔しい思いをしました。論文にはならなかったものの、最終的に良い評価をインターンのホストの方から得られたので、最低限達成したかったことは達成できたように思います。

3. 生活について

前回は車の保険について書きましたが、今回は健康保険について思ったことを書きたいと思います。前回の報告書を書いてから、救急車を呼ぶ機会がありました。結局乗ることはありませんでしたが、どの病院に行くのか聞かれるので、自分がどの病院であれば保険を使えるのかを把握しておいて、ルームメイトなどに伝えておくことが大事だなと思いました。スタンフォードの場合、スタンフォードの病院のERに行くと料金は一定額が請求されるだけのようです。

アメリカの健康保険は日本のものに比べて複雑なので理解するのが難しいです。大きな切り傷ができてしまったときも、日曜日であったためどこに行けばいいのかわからず一日放置してしまっただけ、傷の縫合をするには手遅れで傷跡が残ってしまいました。病院に行ったところで、いくら請求されるのか想像できないのも悩ましいところでした。アメリカの生活は大好きなのですが、健康保険に関しては日本に住む方が圧倒的に安心なのが悩ましいところです。最近武漢のコロナウイルスが流行り始めていますが、これに感染した場合の入院費用などはちゃんと保険でカバーされるのか心配しています。さらに、今のところ健康に生活していますが、我々のような長期留学になると日本の国民健康保険は入っていないので、もし癌などの重病と診断されたら金銭的に人生が終わってしまう上に帰国すらできないのではないかと不安を感じます。

卒業後もずっとアメリカに住み続けることを考えていましたが、健康保険のことや自分が人生でやりたいことなどを考えると他の国に住むことも考えた方が良いのかなと思ってしまいます。卒業後もアメリカに残るだろうと思っていた人が日本に帰国するのを何人も見ましたが、その気持ちが最近わかる気がします。卒業後も数年はアメリカにいると思いますが、その後はどうしたくなるのかわからないなと思っています。